

地球環境、資源、エネルギー、さらに社会環境、生活環境も含めて環境問題の範囲はきわめて広い。今日の世界中でみられるような自然環境破壊、資源の過剰消費、廃棄物の大量投棄を続ければ、人類にとってとりかえしのつかない事態が近い中に生じてくるのは明らかである。これらを少しでも抑制するには、住宅・都市の分野からは①政策・行政からのアプローチ、②住み方・暮し方からのアプローチ、③技術論的アプローチなど多面的な扱え方が必要であるが、ここでは特に環境技術の現況と住宅への応用性などを報告する。

環境技術の目的は、大別すると失われた自然そのものを再生する技術、あるいは資源のリサイクル利用を可能にして最終廃棄物を削減する技術、自然浄化力を強化して大気、水、土などへ廃棄物を分解する技術、最終廃棄物を長期的にストックする技術などが考えられている。それら多種にわたる技術を住宅・建築・都市へ応用し、環境負荷を低減させることが、今後の最大課題となろう。また一方、住宅計画の立場からは実際に設計の初期の段階から環境問題を視座においた手法が必要とされる。エネルギー負荷を抑制し、自然エネルギーを活用しやすい設計、廃棄物を少なくするため現場残材や現場加工を減らすこと、再利用の可能な建材の採用を検討すること、維持・補修のしやすい納まり、細部設計を心がけること、住戸まわりの緑化を進める、そして非透水性の舗装を避ける、など考慮すべき点は多い。さらに資源のリサイクルを可能にするストックスペースの確保や、良好な近隣関係をつくるためのスペースの研究など設計技術として蓄積させるべき事柄ではあるが、現実の経済効果と相反する面も多く、解決が困難な面があることも否めない。